

今月のテーマ

オプケニ/オマウクシニ(キタコブシ)  
村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)

アイヌ文化のことをもつともつと話したい!  
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で  
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。

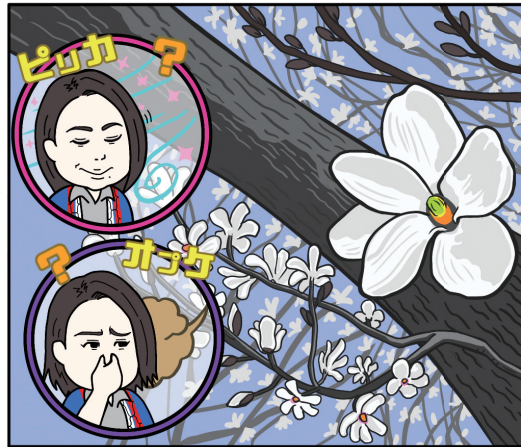
## 北

海道に遅い春の訪れを告げるコブシの花。その  
真っ白い花は、サクラより10日前早く開花します。

この時期、私の勤めるウポポイから望むポロトの森に  
もピンク色の鮮やかなエソヤマザクラとともにキタコ  
ブシの白い花が目を引きまします。

モクレン科のキタコブシは、20m以上の高木にもな  
る落葉広葉樹。新葉が出るより  
先に花をつけるので、満開の時  
期には木全体が真っ白な花に覆  
われ、とてもきれいで印象的で  
す。果実の形が「にぎり拳」に似  
ていることからコブシの名がつ  
いたといわれ、日本原産なので  
学名の中にも「kobus」の名が  
使われています。

キタコブシはアイヌ語で、放屁  
(オナラ)する木という「オプケ  
ニ」、良い香りのする木「オマウ  
クシニ」と真逆ともとれる名前  
で呼ばれます。コブシは香りの良い木として知られてい  
ますがアイヌ語ではなぜ「オナラの木」なのでしょう  
かね? 姉妹の病気神の話に、…姉神が性悪でコタン(村)  
を渡つては病気を撒き散らして村人を死なせることか  
ら、あきれた妹神が一人の村長に「病気の神が来ている、  
村人に知らせて病神が嫌う木、悪臭のする木、薬湯の材



イラスト/山丸ケニ

料などを集めよ」と教え、その木を屋根に刺したり戸口  
に下げ、薬湯をすすり助かった…という話や同じ病神の  
話に、…妹神が「エソジュとコブシ、キハダの木を湯に入  
れ体を洗い、戸口や窓に下げれば死人ももどる」と  
告げた…話では病神が嫌う木の二つとしてコブシが登場  
します。良い香りに引かれて病魔がやっつくと考え、

流行病の時には「オプケニ」とい  
かにも悪臭をイメージする名で  
呼び、普段は良い香りの木「オマ  
ウクシニ」と呼び分ける地域も  
あるといえます。でも「オマウク  
シニは「オ(尻)そ(マウ(風  
香気)クシ(通る)ニ(木)」とい  
うことなので、「尻を風が通る」  
と解釈すると「オプケニ」と同じ  
意味にもとれるというのも面白  
いですよね。呼び方一つで病魔を  
も払うことができるかと考える  
と、名前が重要ですね!

昨年秋、ウポポイで開催した食文化講座でキタコ  
ブシの細枝とシン科のナギナタコウジュの茎をブレンド  
したお茶をいただきました。香りも良くとっても爽  
やかで、ケラアン(美味しい)でした。普段のお茶とし  
て、また、風邪の際にも良いというので、一度試してみ  
てはいかがでしょうか? おすすめですよ。



今回のテーマは「ニベシニ(シナノキ)」  
本田優子(札幌大学教授)が担当します。



ウポポイ  
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK  
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター  
「トゥレツボン」

- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。



イランカラッパ  
「こんにちは」からはじめる。